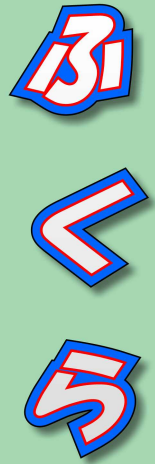


広報



第 2 4 号

二〇一七年三月 発行
浅井湯田地域づくり協議会
事務局 湯田公民館内
メールアドレス azaiyutatiiki@zd.ztv.ne.jp

TEL 0749 (74) 1438

第7回湯田区民まつり
開催される

昨年十一月二〇日、湯田公民館周辺において第7回湯田区民まつりが開かれました。当日は小雨模様の天候となりましたが、延べ一〇〇〇人以上の来場者で賑わいました。

今年の特徴は、屋外ステージライブの充実があげられるでしょう。六団体のみなさんの熱演により、聞いて見て参加しての大変盛り上がったステージとなりました。



公民館サークルのみなさんのオカリナ演奏でオープニング



「しいずん」のみなさんの心温まる歌とトーク



元気と優しさをいただいた「4-p (ホープ)」のお二人



観客も参加して、楽しませてもらった「てるちゃん会」の大道芸



なつかしい歌を次々と歌ってくださった「マーティンクラブ」のみなさん



「陽だまり 2nd」清水加代子さんの美しい歌声



また食べ物コーナーでは、昨年を越える七団体に出演していただき、多くのお客さん達がいろいろな味を楽しんでいました。

キッズコーナーでは、「木工クラフト」、子ども会の「魚釣りゲーム」、浅井福祉会の「スライム作り」などが用意され、子ども達が熱心に取り組んでいました。ちびっ子消防士がお父さんに記念写真を撮ってもらっている様子も微笑ましかったです。

「動物ふれあいランド」ではヤギ、ヒツジ、ウサギなどとふれ合い、大人も子どもも心を癒やされました。

浅井体育館では各町の体育推進委員のみなさんがニュースポーツを準備してください、子ども達の元気な声が響いていました。

湯田公民館内でも、盆栽、通学合宿の写真、書道、生け花などの展示の他、無料歯科健診、健康相談、栄養教室、着付け教室などが開かれました。

消防自動車の横には熊本地震のパネル写真が展示され、自然災害の恐ろしさと防災の大切さを伝えました。

恒例となった連合自治会さんの「ふるまい餅」には長蛇の列ができました。

祭りのトリは伊藤湯田地協評議員長、西橋連合自治会長、川瀬公民館長らによる「餅まき」。ひととき広場は大歓声に包まれました。

今年も盛大に終わった湯田区民まつり。地域の老若男女の心をつなぐイベントとして、さらによいものにしていきたいと思えます。ご来場くださいましたみなさん、ありがとうございます。



湯田小3年親子活動

「ネームプレートづくり」

昨年十一月五日、湯田小学校では三年生の親子活動がありました。浅井湯田地域づくり協議会の協力のもと、「ネームプレート」を親子で力を合わせて作りました。

中川事務局長から説明を受けたあと、もらったプレートに名前を書き入れます。名前だけにしようか。いや苗字も入れようか。漢字にする？ローマ字？そこから親子の話合いが始まります。

名前が書けたら、先日ふくらの森から拾ってきた小枝を切って、ボンドで貼ります。親も子も一生懸命。仲むつまじい光景があらでもこちらでも見られました。

最後は家からもってきた飾りをつけて、完成。どれもその子らしい個性豊かな作品ができあがりました。世界に一個しかない「わたしだけのネームプレート」すばらしい！

この一時

間で親子の絆の深まりを感じました。



浅井福祉の会 主催 親子ハイキングの集い

昨年十二月四日、長浜市社会福祉協議会「浅井福祉の会」主催の親子ハイキングが「ふくらの森」で実施されました。

浅井湯田地域づくり協議会「地域振興部会」では、森内の案内、ゲームなどに協力させていただきました。

地域おこし協力隊の福原さんの進行で親子連れ約六〇名がハイキングを開始。森内ではきれいな落ち葉を拾ったり、きのこを見つれたり、野いちごを探して味わったりして、紅葉のふくらの森の魅力を十分に満喫していただきました。

昼食時には「福祉の会」さんが具だくさんの豚汁、焼き芋、焼きリンゴ、焼き豚、焼き鶏などたくさんのごちそうを作ってください、お腹いっぱいになるまでおいしくいただきました。

午後は、黄色、赤、茶色の落



みんなで森の中を散策



見つけた野いちごはほんのり甘ずっぱかった



ち葉や木の実を使った万華鏡づくりを楽しみました。また合間には、綱渡り、滑車モノレール、竹すべり台、ガラス落書きなどたくさん遊ばせました。子ども達は歓声をあげていました。

おやつには、きなこあんこのぼた餅をいただきました。

心配した天気もなんとか最後までもってくれました。

今日一日「ふくらの森」で遊んだことは、親さんにも子ども達にも楽しい思い出になったのではないのでしょうか。

スタッフのみなさん、お疲れ様でした。参加してくださった皆さんに喜んでもらえてよかったですね。

地域振興部会 シイタケ栽培研修

去る二月八日、湯田公民館においてシイタケ栽培研修会が開催されました。

講師に「日本きのこセンター」の梶川祐太氏をお迎えし、約三〇名のシイタケ栽培家などが熱心に聴講しました。



梶川氏に教えていただいた概要を記します。

- ・ 原木伐採時期は秋、木の葉が色づいた頃がよい。休眠期に入ったらばかりで養分も多い。
- ・ 伐採後、枝葉をつけたまま一ヶ月間ほど乾燥させて水分を抜く。(葉枯らし)
- ・ その後一mほどの長さに切

る。(玉切り) 植菌するまでは直射日光に当てないように遮光ネットなどで被っておく。

・ シイタケ菌には「形成菌」と「駒菌」がある。

・ 植菌数は、「形成菌」の場合は、原木の直径×5倍。「駒菌」の場合は直径×4倍。

・ 菌糸は原木の道管に沿って縦に伸びるので、植菌の縦幅は約二〇cm、横幅は「形成菌」の場合は指の太さ二本分。「駒菌」の場合は三本分。千鳥状に植える。

・ 植穴の深さは、形成菌は約二・五cm。深くすると空洞ができて菌が乾燥する。駒菌は約三cm。深穴でよい。

・ 植菌の次期は二〜三月頃。

・ 植菌後、「仮伏せ」を行う。ホダ木を棒積み(横積み)にし、保温、保湿を心がける。できればブルーシートをかける。

・ 白い菌糸網が出てきたら「本伏せ」を行う。ホダ木の組み方や場所は、次の条件。①直射日



同日午後一時半より、八島町ライスセンター前においてシイタケ植菌体験親子教室が開催され、地元の親子約三〇名が参加しました。梶川氏より植え方の説明を聞いた後、約二〇〇本のホダ木に形成菌や駒菌を植え付けました

シイタケ植菌体験教室

八島里山づくり委員会
光が当たらない。②風通しがよい。③雨が当たる。④ふるいホダ木の近くには置かない。
・夏場の散水は、夕立の後に行う。朝や日中は散水しない。



ふるさと絵屏風に描かれた湯田全景

トピック 湯田ふるさと絵屏風

湯田小学校の校長室に「湯田ふるさと絵屏風」が飾られています。この屏風に貼られている絵には、今から約五〇年前（昭和三〇年代）の湯田地区のくらしが描かれています。右から春夏秋冬の四季の移ろいも表現されています。



魚とり



運動場で盆踊り



かまどと五右衛門風呂



花嫁行列

絵屏風に描かれた昔なつかしい1コマ

昨年六年生児童が総合学習で地域の昔のくらしを学習しました。子ども達は地域の方への聞き取りや調べ学習から「ここにあるもの」を生かして昔のくらしのあり方を考えました。絵は湯田小学校元教頭の中西佳澄氏が担当され、往時のくらしぶりを想起させる貴重な歴史資料となっています。

ます。